

# 病気療養中の生徒への 支援ガイドブック

高等学校段階における「オンデマンド型授業」  
及び関係機関との連携の実際



文部科学省委託

「病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業」

岐阜県教育委員会



## はじめに

「学校の先生は治療に専念してほしいと思っている。しかし、病院は入院中の教育も大切にしたい。『勉強もがんばれよ』と伝えることが入院している子どもたちにとって前向きなメッセージになる。」と医師からお聞きした時、病気療養中の生徒にとって何が大切なのかを考えさせられました。

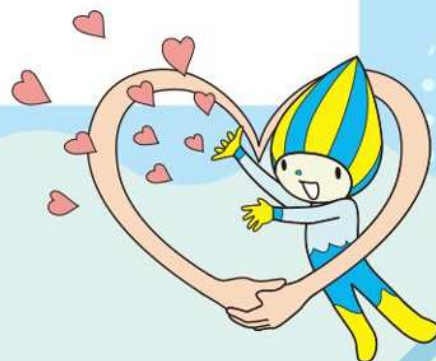
入院や自宅療養などで登校できなくても学習が続けられる環境を整え、在籍する学校とつながり続けることは、病気療養中の高校生にとって大切な支援です。

本人の病状や、治療の時間が前後することによって、同時双方向型（オンライン）の授業に、出席したくてもできない場合があります。

病気療養中の生徒への遠隔教育は、同時双方向型の授業を原則としつつも、配信側の授業時間に合わせて同時双方向型授業を受信することが難しい場合、オンデマンド型授業を実施することで、これを出席とすることが認められています。

このたび、「病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業（文部科学省指定事業）」を受託し、県内の学校や医療機関の関係者向けに、遠隔教育への理解が広まるようガイドブックを作成しました。

病気療養中の生徒が抱えている不安や関係する専門職の支援についてや、効果的なオンデマンド型授業の在り方について知っていただき、病気療養中の生徒へのよりよい支援につながれば、と思います。



## 目 次

|                         |            |
|-------------------------|------------|
| 入院する生徒を支えるために           | ..... 1~5  |
| 支援の全体図                  | ..... 6    |
| 遠隔教育の実施について             | ..... 7    |
| オンライン・オンデマンド型授業を支える主な機材 | ..... 8    |
| オンデマンド型授業の実施方法          | ..... 9~10 |
| ウェアラブルカメラの活用特集          | ..... 11   |
| オンデマンド型授業の展開例【流通・サービス】  | ..... 12   |
| オンデマンド型授業の展開例【工業技術基礎】   | ..... 13   |
| オンデマンド型授業の展開例【化学基礎】     | ..... 14   |
| オンデマンド型授業における指導と評価について  | ..... 15   |
| (参考) 文部科学省 資料           | ..... 16   |



## 入院する生徒を支えるために

「入院しなければならない」と分かった時の不安な気持ちは、想像するに難くありません。そのような状況にある生徒を支えていくためには、周囲の協力が不可欠です。入院から退院、学校復帰後まで、様々な場で、様々な人が支えていきます。具体例を交えながら紹介します。

※以下の内容は一例です。配慮する点は病状等に応じて異なります。

### 入院に向けた支援会議確認事項

～病弱を対象とするコア・スクール特別支援教育コーディネーターの立場から～

#### 身体的な面での配慮

- 治療の計画や経過、現在の状態、また、退院後の治療の見通しや想定される症状について理解し、留意する点や配慮が必要な点を関係機関で共有したり確認したりします。
- 授業中の環境や部屋の状況、体調が悪くなった時の対応、疲れたときに休めるような場所や休み方について確認します。
- 治療や検査、体調等により授業を欠席する場合や、授業の途中で受けることが難しくなった時の連絡方法を確認します。

#### 心理的な面での配慮

- 病気によっては治療により容貌が変わることもあるため、遠隔授業を受ける際に自分の顔を画面に出すことについて本人の気持ちを確認し、対応できるようにします。
- 長期入院することを学校の他の生徒たちにどのように伝えるか、本人の気持ちを確認し、学校関係者が共通認識をもって対応します。
- 学校とのつながりや所属感が得られるよう、友人や先生とかかわれる時間として、授業以外の時間（休み時間や放課後など）のオンライン接続について、本人の状態や気持ちを大事にしながら検討します。



# 入院する生徒の揺れ動く気持ち

～臨床心理士の立場から～

## 病気になった時、生徒たちが感じる気持ち

思春期の生徒たちが病気になったときに抱く気持ちの中には、自尊心や自己効力感の低下、治療の副作用等によるボディイメージの変化に伴う劣等感、友人関係、進学、将来への不安などがあります。

特に、「今後の自分の将来のこと」についての悩みは最も多く、治療によって学業が遅れたり、中断されてしまったりすることで、将来への希望が絶たれてしまうように感じることもあります。

## 入院中、生徒たちの支えになっていること

教育は生徒たちの夢や希望に直結するため、教育が維持されることそのものが治療意欲の向上につながります。また、親からの精神的自立を図ろうとし始める思春期以降の生徒にとっては、親以上に友人の存在が重要になるケースが多いです。クラスメイトからの寄せ書きや折り鶴などを病室に飾って、それを励みに治療を頑張っている生徒もいます。病院の外で友人が”自分のことを待っている”と感じられることは、孤立感を和らげ、病気に打ち勝とうという気持ちを強めてくれるのです。一方で、病気のことを知られたくない生徒もいるので、本人の希望に合った形でクラスメイトとのつながりが維持できることが大切です。



## 病院と家庭と学校をつなぐ

～医療ソーシャルワーカーの立場から～

医療ソーシャルワーカーは、病気になった患者とその家族を社会福祉の面から支援する専門職です。患者や家族が安心して療養できるよう、退院に向けた社会資源を活用するための支援や調整、復学に向けた支援も行っています。

### 事例

患者は心疾患のある男子高校生。退院後は点滴を続けたままの生活が必要でした。自宅での生活を安全に送ることができるよう、生徒・家族と相談し、訪問看護が利用できるようにしました。身体障害者手帳に該当する見込みだと医師が判断したので、手続き方法を患者と家族に説明しました。手帳の等級によって岐阜県では医療費の助成を受けることができるので、退院後の費用負担に不安なく医療を継続することができました。また、生徒は車いすでの移動が必要ですが、学習意欲が高く、友人のいる学校に再び通うことを希望していました。

医療ソーシャルワーカーとして、訪問看護ステーションや学校の先生たちとの情報共有と連携することを、生徒と家族に提案し、退院前カンファレンスを開催することになりました。主治医・病棟看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカー、訪問看護ステーションの看護師、教頭先生・担任の先生・保健室の先生が出席し、生徒と家族を交えて話し合いを行いました。生活上の注意点や緊急時の対応について医師が情報提供したことで対応が明確になり、生徒と家族、訪問看護師、学校は退院後の不安が解消されました。

地域の関係機関と医療機関が入院中から退院後も継続して連携することで生徒と家族が安心して生活できる環境づくりができました。



## 復学に向けた支援会議確認事項

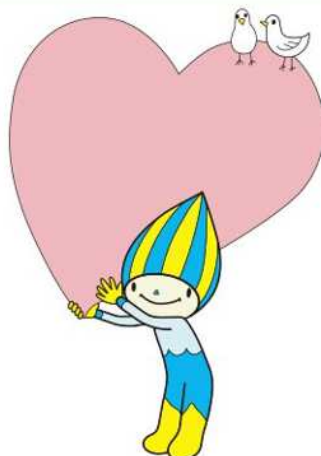
～病弱を対象とするコア・スクール特別支援教育コーディネーターの立場から～

### 身体的な面での配慮

- 本人の体調や体力を考慮し、学校生活への順応に向けて段階的な通学を検討したり、安全に通学できるよう、通学方法や通学中の留意点（急に体調が悪くなったときの対応など）について確認したりします。
- 学校生活の中で体調が悪くなったときの対応方法について確認をします。誰に伝えるか、また、その時の休める場所や休み方など、その際に必要な配慮について確認します。
- 授業を受けるにあたって必要な配慮（50分間の座位の保持、書字動作、認知面、体力や活動量の制限、望ましい環境や必要となる装具など）について確認します。
- 摂食時の留意点や配慮点について確認します。
- 感染症等、留意が必要な場面（避けた方がよい環境、マスクの着用、流行の兆候がみられた時の早期の連絡など）について確認します。

### 心理的な面での配慮

- 本人が病気をどのように理解しているかを把握し、関係者が共通認識をもって本人とかわるようにします。
- 学校生活を送るうえで、自分の病気や必要な配慮などを誰に伝えるか、また、伝える内容、伝える場や方法について、本人に相談し、気持ちを確認します。
- 復学後は学校生活をがんばりたいという気持ちが強くなりやすく、体のしんどさに自分で気付きにくかったり、後々しんどさが現れたりすることもあるため、本人の様子に気を配ったり、学校や家庭で気になる様子がみられた際は共有したりします。



## 復学後の支援

～学校の立場から～

### 事例

#### 復学後～学校での様子や支援体制

退院後は、徐々に登校できるように、自宅療養の際にオンライン授業を受ける他、体調によっては1日に1～2時間程度の授業参加から始め、安心して学べるように環境を整えてきました。体調不良や通院が重なり、リアルタイムで授業に参加できない時には、オンデマンドによる視聴及び授業プリントの提出などで出席となるようにバックアップ体制を整えています。

薬の副作用や気温の変化による体調不良と向き合い、時には夜更かしをしたり、友人と遊び過ぎたりして不安定になるなど、日々の経験から自分と向き合い自己管理能力を高めています。移動困難な集会や講演会はオンライン参加する等、配慮や情報共有の必要性は当然ありますが、教職員もクラスメイトも特別な思いではなく普通に接することが、授業も行事も楽しみつつメリハリのある学校生活を過ごすことに繋がっています。

#### 地域や家庭との連携

退院前合同カンファレンスをはじめ、地元の病院と地域連携におけるサービス担当者会議により、病状を共有して緊急時の対応を確認して、病院、訪問看護、相談支援、消防署、家庭、学校の各々がもつ課題と現状の共通理解をしてきました。校内では、緊急時対応マニュアルを作成し、緊急体制を整えて情報を周知し、家庭と常に連絡できる体制をとっています。

現在は、将来の生き方を模索し、大学進学を目指しているところです。



## 支援の全体図



岐阜県教育委員会 特別支援教育課・高校教育課  
長良特別支援学校 特別支援教育コーディネーター

※長良特別支援学校は、病弱対象の特別支援学校です。

病弱教育のコア・スクールとして、広く病弱教育の理解啓発・支援・研修、教育活動の工夫・改善を行っています。



# 遠隔教育の実施について

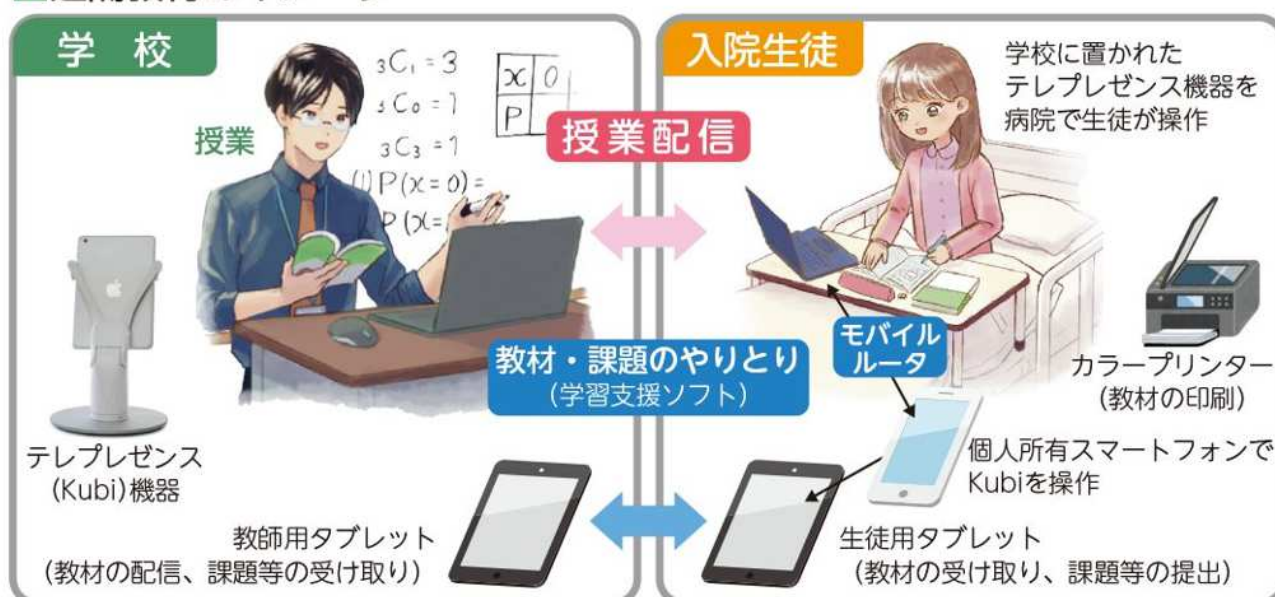
## 実施手順



|       | ①・⑤                  | ②・④                                                                                       | ③                |                                                  |
|-------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------------------|
|       | 希望生徒の報告書類提出先         | 支援会議メンバー<br>(入院時・復学時)                                                                     | 備品等準備            | 支援内容の相談                                          |
| 公立高校等 | 岐阜県教育委員会<br>特別支援教育課  | ①医療機関関係職員<br>②生徒本人<br>③保護者<br>④長良特別支援学校<br>(病弱コア・スクール)                                    | 特別支援教育課<br>より貸出可 | 岐阜県立<br>長良特別支援学校<br>(病弱コア・スクール)<br>(058)233-7418 |
| 私立高校  | 私学振興・青少年課<br>(岐阜県庁内) | ⑤該当校関係職員<br>・管理職<br>・養護教諭<br>・特別支援教育コーディネーター<br>・担任 等<br>⑥特別支援教育課<br>⑦私学振興・青少年課<br>(私立高校) | 学校で準備            |                                                  |



## 遠隔教育のイメージ



# オンライン・オンデマンド型授業を支える主な機材

(特別支援教育課から貸出可能機材)

## テレプレゼンスロボット (Kubi)



上下 (90°) 左右 (300°) 可動

## タブレット端末 (iPad)



教卓等の前に固定して置くことができる

## モバイルルーター



学校 (Kubi接続用) と入院先 (受講用) で使用

## 可動式三脚



キャスター付きのため教室内を移動しやすい



Kubiと組み合わせることで、より自在に授業を視聴できる

## 集音マイク



グループワーク等で音声をクリアにひろうことができる

## ウェアラブルカメラ



教員や生徒が着用し必要な場面を録画できる

## ピンマイク



授業者が着用することでクリアな音声で配信ができる

## モバイルディスプレイ (15インチ)



生徒用タブレットにつなぎ、授業映像を拡大して視聴できる

## カラープリンター



学習支援ソフトから教材をダウンロードして印刷し、入院先でも紙での学習ができる

## モバイルバッテリー



授業配信用タブレットやモバイルルーターのバッテリー補助として使用できる

# オンデマンド型授業の実施方法

～同時双方向型(オンライン)授業配信をそのまま録画!～

## 1 配信方法 授業者のタブレット端末(または各校の予備のもの)もしくはiPad



(1) ホワイトボード付近に  
タブレット端末を固定して  
配信

状況に合わせて配信方法を選ぶ



(2) 三脚(可動式)を使った配信

三脚のスペースの確保が必要となる  
が、映したい箇所を配信できる

※オンラインではKubiを使用すること  
で生徒が見たい方向に操作(上下左  
右)が可能

## 2 配信の工夫 ピンマイクと集音マイクがあれば、声がよく聞こえるからストレスなく視聴できる

配信の  
基礎編

その1 **ピンマイク** 教員の声クリアに聞こえるためどの授業でも活躍



※ピンマイクの受信機(Type-A)  
をタブレット端末に差し込む  
だけで使用可。フル充電で、  
一日分の授業時間がもち  
ます。





グループ学習の音声をクリアに聞き取れる。配信先の生徒の音声を大きくすることができる。  
※スピーカーフォンの端子(Type-A)をタブレットに差し込むだけで使用可(ワイヤレスでの使用も可)。  
ただし、ピンマイクとの併用ができないため、使用の際はピンマイクと差し替えが必要。



教員目線の様子

#### ●使用方法とポイント

- ・本体の左側面の「動画(ビデオカメラマーク)」を軽くタッチ(動画撮影開始・終了)。
- ・装着者の口元に向けた角度で本体を装着すると、適切に手元を映すことができる。

#### ●撮影した動画の処理

内蔵のMicroSDカード→カードリーダーで読み込み→教師用タブレット  
→必要な箇所の動画の切り取り→MetaMoji等にアップロード

※MicroSDカードは外部記録媒体のため、管理職に届け出をした上で使用してください。

## 3 授業の録画方法 (Microsoft Teamsの場合) 録画と視聴が手軽にできる

#### ●事前準備

「チーム」の作成……教科担任、担任、該当生徒 等  
「チャンネル」の作成……科目ごとに作成

#### ●録画の手順

「チーム」→「チャンネル」→「会議を開く」→「その他」→「レコーディングの開始」(授業の録画)→「退出」  
※「退出」すると録画が自動的に終了(動画容量の上限はないが保存期間は60日間)

【視聴方法】チャンネル(設定した科目)→「ファイル」→「Recordings」→録画されたリストから選択

# ウェアラブルカメラの活用特集

～実験や実習で活躍～

※各動画の授業内容は次のページから参照

応用編

## 流通・サービス

テープ貼り  
(一の字貼り)



## 工業技術基礎

墨壺の使い方



入院中でも、実習や実験の道具の使い方や手順をまとめることができます。

※Windows PCの場合、「フォト」機能から動画のトリミングができます。

超  
応用編

ウェアラブルカメラ (教員目線、生徒目線あり) を駆使した教材作成例

## 化学基礎

授業動画



教師用目線と生徒用目線でそれぞれ撮影したウェアラブルカメラを活用。  
両方あると編集がしやすい。

復学後に必要な実習等を行ってください。



# オンデマンド型授業の展開例

## 【流通・サービス】

- 教科 「流通・サービス」対象：3年
- 単元名 ロジスティクス（梱包・包装）
- 本時の目標 梱包に用いるテープの種類、特徴や用途を理解し、段ボールにテープを手際良く正確に貼る。
- 評価規準
- 梱包に用いるテープの種類、特徴や用途を理解している。（知識・技能）
  - 粘り強く実習に取り組み、スムーズにできるよう工夫している。（主体的に学習に取り組む態度）
- 展開例 T1、T2体制



| 時間  | 学習内容                                              | 指導上の留意点                                              | オンデマンド対応                                    | オンデマンド型授業の場合の評価方法                 |
|-----|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------|
| 5分  | 本時の説明                                             | ● 本時の目標、内容および必要物品を確認する。                              | ・【ピンマイク】教員着用                                |                                   |
| 10分 | テープの種類と用途                                         | ● プリント、スライドに沿ってT1が説明、T2が机間指導を行う。                     | ・スライド提示                                     | ・学習プリント<br>（知識・技能）                |
| 25分 | テープ貼り<br>①一の字貼り<br>②H貼り<br>③十字貼り<br>④キ貼り<br>⑤米字貼り | ● ①から順に1つずつ、T1示範のあと、生徒が実習を行う。<br>● T1、T2で確認、指導助言を行う。 | ・【ウェアラブルカメラ】<br>教員および生徒が装着して撮影<br>・実習の様子を撮影 | ・行動観察<br>※後日実施<br>（主体的に学習に取り組む態度） |
| 10分 | 振り返りとまとめ                                          | ● 振り返りをMetaMoJiのシートに入力する。                            | ・MetaMoJiを通してシートを提出                         |                                   |



### オンデマンド型授業の学習支援

#### <授業前>

- ・授業で提示するスライドや学習プリントをMetaMoJiにアップロードする。

#### 授業資料



学習プリント

#### <授業後>

- ・ウェアラブルカメラで撮影した動画をMetaMoJiにアップロードする。  
撮影動画：教員によるデモ(10分)、生徒実習(10分ずつ)
- ・対象生徒からMetaMoJiに提出された学習プリントを評価し、フィードバックする。
- ・実技については、復学後に個別に指導を行う。

# オンデマンド型授業の展開例

## 【工業技術基礎】

- 教 科 「工業」科目「工業技術基礎」対象：1年 建設工学科群
- 単 元 名 木造加工実習
- 本時の目標 木材加工に必要な墨付けを行う。
- 評価規準
  - 道具の特性を活かして、正確な墨付けを行うために必要なことをまとめている。(思考・判断・表現)
  - 道具の特性を活かして、正確な墨付けを行うことができる。(知識・技能)
- 展 開 例 (3時間連続) T1、T2体制



| 時間  | 学習内容           | 指導上の留意点                                                          | オンデマンド対応                                                                                                                                                                    | オンデマンド型授業の場合の評価方法                                                                                                        |
|-----|----------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10分 | 本時の説明          | テキストの記入方法等を指示する。<br>安全作業・危機管理の徹底を念入りに行う。<br>他の教科にも関連してくることを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【タブレット①】(Microsoft Teams) 授業用・画面共有配信</li> <li>・【タブレット②】(三脚キャスター付) 授業風景撮影用・黒板+説明者撮影</li> <li>・【ピンマイク】装着</li> <li>・【集音マイク】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリント (思考・判断・表現)</li> <li>・行動観察</li> <li>・制作物</li> <li>※後日実施 (知識・技能)</li> </ul> |
| 70分 | 道具の名前・使用方法     | テキスト・スライド・実物を手に触れ、確認しながら道具の名前を確認する。                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【タブレット②】 道具・生徒側を撮影</li> <li>・【ウェアラブルカメラ】を装着 (学校側生徒) 【録画】 手元を意識し録画</li> </ul>                                                        |                                                                                                                          |
| 50分 | 墨付けの実施         | 図面を確認し、正確な寸法を理解させるため、テキストにメモを取る指示をする。<br>ポイントを実演しながら説明する。        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【タブレット①】 スライド共有</li> <li>・【タブレット②】 道具・生徒側を撮影</li> <li>・【ウェアラブルカメラ】を装着 (学校側生徒・教師) 【録画】</li> </ul>                                    |                                                                                                                          |
| 15分 | 道具の片付け<br>意見交流 | 道具の片付け<br>本時の確認。正確な墨付けを行えるポイントを話し合うよう声かけをする。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【タブレット②】 生徒側を撮影</li> <li>・【集音マイク】</li> </ul>                                                                                        |                                                                                                                          |



### オンデマンド型授業の学習支援

#### <授業前>

- ・授業で提示するスライドや学習プリントをMetaMoJi・manabaにアップロードする。

#### 授業資料



#### <授業後>

- ・ウェアラブルカメラで撮影した動画をMetaMoJiにアップロードする。
- ・対象生徒からMetaMoJiに提出された学習プリントを評価し、フィードバックする。
- ・実技補習については、復学後に実施する。

# オンデマンド型授業の展開例

## 【化学基礎】

- 教科 「理科」 科目「化学基礎」 対象：3年
- 単元名 第3編 物質の変化 2章 酸と塩基 中和反応と塩基
- 本時の目標 石鹼作り実験を通して中和反応による石鹼生成と熟成過程を化学式で表現する。
- 評価規準 化学反応を化学式とキーワードを使用して説明している。  
(思考・判断・表現)
- 展開例



| 時間  | 学習内容                           | 指導上の留意点                                             | オンデマンド対応                                                 | オンデマンド型授業の場合の評価方法      |
|-----|--------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------|
| 2分  | 前時の復習と本時の説明                    | ● 本時の内容を確認する。                                       | ・ スライドで提示<br>・ 【ピンマイク】 教員着用<br>授業会話を録音し、それを文章化して、音声と共に配信 | ・ 学習プリント<br>(思考・判断・表現) |
| 6分  | 実験操作の動画を見る                     | ● 操作方法の根拠を、生徒が理解できるように発問する。                         |                                                          |                        |
| 28分 | 石鹼合成実験を行う                      | ● 対象生徒を支援する声かけや文字使用(説明)をする。                         | ・ 【ウェアラブルカメラ】<br>実験操作担当の生徒が着用し撮影<br>・ 教員が実験の様子を撮影        |                        |
| 9分  | 実験の振り返りをレポートにまとめ、グループ内で相互評価する。 | ● オンデマンド生徒の自己評価の参考になる、相互評価を確認する。<br>● 本時の学習内容を確認する。 | ・ 【ウェアラブルカメラ】<br>発言・説明する生徒が着用し撮影                         |                        |
| 5分  | まとめ                            |                                                     |                                                          |                        |



### オンデマンド型授業の学習支援

#### <授業前>

- ・ 授業で提示するスライドや学習プリントをMetaMoJiに、動画をmanabaにアップロードする。

#### 授業資料



学習プリント

#### <授業後>

- ・ ウェアラブルカメラで撮影した動画と会話を文章化した資料をMetaMoJiにアップロードする。  
教員による実験操作の様子(6分)、生徒の実験操作活動と考察の様子(30分)
- ・ オンデマンド対象生徒は、文章化した資料を学習理解に活用する。
- ・ オンデマンド対象生徒からmanabaに提出された学習プリントを評価し、フィードバックする。
- ・ 実験実習補習は、復学後に他の生徒に協力を依頼して実施する。

# オンデマンド型授業における指導と評価について

～高校教育課 指導主事より～

## オンデマンド型授業での指導と評価の一体化

日頃、先生方は本時あるいは単元で育成することを目指す資質・能力を評価規準として明らかにし、指導や評価を実施していますね。評価規準は、教室にいる生徒にとっても、画面の向こうで受講する病気療養生徒にとっても共通です。つまり、オンデマンド型授業での指導の準備の大半は、教室で実施する授業と重複しており、指導方法や評価方法に工夫・改善を加えることでオンデマンド型授業に対応できるはず、と言えるでしょう。以下に、オンデマンド型授業における指導と形成的評価<sup>(※1)</sup>の実施の在り方として想定される流れを挙げます。

- ①授業者がプレゼンテーション用のスライドや学習プリント、授業の場面を切り取った動画等を作成し、学習支援ソフトや学習管理アプリケーションにアップロードする。
- ②病気療養生徒はアップロードされた教材を用い、体調を勘案して学習を進める。
- ③授業者はチャットやメール、ビデオ通話等の手段により学習状況を見取り、評価規準に達しないおそれがある場合は、補足の説明や課題作成の助言等の手立てを講じる。



## オンラインでの提出物による評価の可能性

総括的評価<sup>(※2)</sup>については、専門的な機器や環境を用いた実技によるものを中心に、登校再開後に実施することが想定されますが、オンラインによる提出物を用いて実施することも可能ではないでしょうか。例えば、アンケートフォームや文書作成ソフトを用いた短文・長文のレポートを、記述内容をもとに評価することは日頃の授業でも実施されて

おり、オンデマンド型授業の評価方法としても取り入れることが可能でしょう。発展的な方法では、記録機能を用いて音声やアニメーションを収録したプレゼンテーションや、カメラの動画撮影機能を用いたパフォーマンスを提出させ、観点に照らして評価するという方法も考えられます。



## 日頃の授業の延長線上のオンデマンド型授業

オンデマンド型授業に対応した教材は、学習支援ソフト・学習管理アプリケーション等にアップロードすれば、病気療養生徒の教材となるだけでなく、教室で学習する生徒にとっても予習や復習の教材として活用可能となり、全ての生徒の学習の幅を広げることが可能となります。「病気療養生徒への学習保障が必要になったから特別に計画し実施する」という考えから「日頃使用している教材や学習環境を活用してオンデマンド型授業を実施する」という考えに転換していくことが、病気療養生徒に対する学習保障の第一歩になります。

入院中や自宅療養中であっても、先生や友人と一緒に学校の学習を継続できるということは生徒の安心につながり、心の支えとなるでしょう。ただ病気療養生徒の学習機会を保障するだけでなく、その学習の成果として必要な資質・能力を身に付けることができるような指導と評価の工夫を進めていきたいですね。

※1 形成的評価…生徒の様子を観察して理解度を把握するなど、指導の改善に生かす評価。

※2 総括的評価…育成を目指す資質・能力が顕著に表れる場面で実施する、評定をつけるために行う評価。

## 病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業配信を可能とする制度改正について

### 改正の背景等

- ・小・中学校段階：平成30年9月より、同時双方向型授業配信を実施した場合、指導要録上の出席扱いとすることが可能。
- ・高等学校段階：平成27年4月に、同時双方向型の授業を制度化したほか、文部科学大臣の指定を受けた高等学校においては、病気療養中等の生徒に対し特別の教育課程を編成することが可能（特例制度）。当該特例制度においてのみ、オンデマンド型の授業による単位認定が可能だが、申請に時間を要することもあり、活用は進んでいない。

病気療養中等の児童生徒については、**本人の病状に加え、治療の状況によって学習時間が前後することもあり、リアルタイムで授業を配信する同時双方向型のみでは、教育機会を十分に保障できない可能性がある。**よって、病気療養中等の児童生徒においては、同時双方向型を原則としつつ、**事前に録画した動画を視聴するオンデマンド型の授業配信を可能とする必要がある。**

### 改正内容

- 小・中学校段階：通知を改正し、**オンデマンド型授業配信による指導要録上の出席扱いを可能とした。**（令和5年3月30日通知）
- 高等学校段階：学校教育法施行規則第88条の3における「メディアを利用して行う授業」について規定している告示を一部改正し、病気療養中等の生徒については、**オンデマンド型の授業による単位認定を可能とした。**（令和5年4月1日施行）

### オンデマンド型の授業配信に係る留意事項

- ・ **同時双方向型を原則としつつ**、当該児童生徒の病状や治療の状況等から、配信側の授業時間に合わせて同時双方向型で実施することが難しいと学校において判断した場合に限り、オンデマンド型で実施することが可能。
- ・ 当該児童生徒の生活や学習の状況を把握し、学校外の関係機関等と積極的な連携を図り、本人やその保護者が必要としている支援を行うこと。
- ・ 学習評価においては、定期的な訪問やオンラインでの面接、メールでのやり取り等を通して、動画の視聴及び学習状況を可能な限り把握するとともに、課題提出等、工夫して行うこと。
- ・ （小・中学校段階のみ）当該児童生徒の学齢や発達段階等を踏まえ、オンデマンド型授業配信の実施の可否について、学校において、保護者や医療機関と連携しつつ、適宜判断すること。等

## おわりに

病気療養中の生徒には、「単位を無事にとれて、高校を卒業できるのだろうか…」という不安があります。

「病気療養中の生徒には同時双方向型を原則としつつ、オンデマンド型授業においても出席や単位認定が認められる」このことを、病気療養中の生徒や保護者にしっかりと伝えていただくことで、治療にも学習にも前向きに取り組む「安心の土台」となります。

本ガイドブックで紹介した、様々な機材や録画方法、授業例を参考に「どうしたら学習保障ができるか」、さらには「復学後に必要な学びをどのように補うか」ということを、各学校で検討いただければ幸いです。

治療やその後の生活に向かうために、ICT機器を使って、休み時間にクラスメイトとやりとりすることや学校行事などで「学校とつながる」ことも大切な時間です。

一人でも多くの病気療養中の生徒が、学校とつながりを持ち続け、安心して治療と学びを続けることができることを願っています。

### 【今回の研究に協力いただいた関係機関】

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学医学部附属病院  
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 岐阜市民病院  
公立学校法人岐阜県立看護大学 学校法人聖徳学園岐阜聖徳学園大学  
岐阜県立中津川工業高等学校 岐阜県立郡上高等学校  
岐阜県立長良特別支援学校 岐阜県立西濃高等特別支援学校

### 【表紙・カットイラスト協力】

岐阜県立岐阜各務野高等学校 情報科3年

発行 岐阜県教育委員会 特別支援教育課

本ガイドブックは当課ホームページにも掲載しています



令和7年3月発行

